昭和 57 年度

シグマ特別専門委員会(シグマ研究委員会)議事録

日　　時　　昭和57年5月7日(金)　　11：00 ～ 17：30

場　　所　　日本原子力研究所　東京本部第1会議室

出 席 者　　原田吉之助（主査，原研）

朝岡　卓見(原研)，浅見　　明(高エネ研)，飯島　俊吾(NAIG)

五十嵐信一(原研)，大竹　　巌(富士電機)，大林　治夫(名大)

菊池　康之(原研)，坂本　正誠(原研)，白方　敬章(動燃)

椙山　一典(東北大)，瑞慶覧　篤(日立，小林節雄代理)，

関　　泰(原研)，関　　雄次(MAPI)，田中　茂也(原研)

田村　　務(原研)，塚田甲子男(日大)，中沢　正治(東大)

中嶋　龍三(法大)，西村　和明(原研)，久武　和夫(東工大)

松浦祥次郎(原研)，松延　廣幸(住友原工)，村田　　徹(NAIG)

山室　信弘(東工大)，山本　正昭(FBEC)，

オブザーバ　：　　浅見　哲夫(原研)，喜多尾憲助(放医研)

弘田　実弥(原研)

欠 席 者　　安，池上，梅沢，小幡，神田，木村，更田

配布資料

1. 昭和57年度シグマ研究委員会名簿
2. 56年度運営委員会概要
3. 核データ小委員会議事録(案)抜粋
4. シグマ特別専門委員会内規(改正案)
5. 核構造・崩壊データ専門部会資料
6. 核種生成量評価WGの新設について
7. JENDL積分評価WG資料
8. 核融合炉・遮蔽定数WG資料
9. 核データ専門部会資料

10. NEACRP第24回会合資料

11. 第12回INDC会合報告

議　事

1. 主査の挨拶

2. 新委員の紹介

57年度から委員になった大林治夫氏(名大・プラ研),白方敬章氏(動燃),関　泰氏(原研),中沢正治氏(東大),松浦祥次郎氏(原研),村田　徹氏(NAIG)が紹介された。

3. 事務局報告

(1) 運営委員会報告(五十嵐)

昨年の会合以降に行われた運営委員会(56年度第3回〜第10回)での主な審議事項について資料2.により説明があった。

(2) 旅費報告(浅見(哲))

シグマ委の56年度の旅費使用状況及び57年度の予算について説明があった。

(3) 概算要求(五十嵐)

核データセンター関係の58年度概算要求の概要について説明があった。

(4) 学会関係報告(五十嵐,椙山)

56年度に行われた核データ関係の事項及び今後の行事予定等について説明があった。

(5) 核データ小委員会報告(五十嵐)

資料3.をもとに,昨年の11月12日に行われた核データ小委員会の概要の説明があり,とくに本年秋の物理学会(北大)の際に核データに関するシンポジウムの計画のあることが報告された。また,KFK核図表(1981年版)の入手希望者は,池上氏(阪大・核理研)に直接申し込んで欲しいとの説明があった。

4. 内規の改訂

田中氏から資料4.を用いて，内規の改訂に至る経緯とともに改正案及び監査小委員会からの付帯意見について説明があった。主な改正点は，(1) 委員の任期を1年から2年にしたこと，(2) 主査の人選に関する文章をわかり易くしたこと，(3) 運営委員の構成及び委員数を明確にしたこと，(4) 監査小委員会の名称を諮問・調整委員会とし，委員数を増やすとともに運営委員からの参加を2名以内で認めるようにしたこと等であった。これに対して討議を行い，諮問・調整委々員の10名は多過ぎないか，原研の委員会規程との関連等の意見・質問が出たが，改正案は承認された。なお，今後の運営委員会では，審議に関連するWGのリーダを出席させて欲しいこと，運営委員になっているWGリーダとそうでないWGリーダの間に情報の偏りがないように配慮して欲しいなどの要望があった。後者に関しては，資料の配布方法などを検討することにした。

5. 主査の選挙

選挙の立会人として，旧監査小委員の浅見(明)，椙山，山室，山本の各氏及び田中氏がが選出され，オブザーバを除く現出席者数24名が確認されて投票に入った。投票の結果，原田氏21票，A氏2票，B氏1票で原田氏が再選された。

6. 57年度委員

五十嵐氏から，57年度のシグマ研究委員会委員名簿(資料1.)が説明され，とくにWGの新メンバーが報告され了承された。

原田氏から，議事4.で了承をえた内規の改訂にもとづいて，57年度の運営委員会案が報告され，了承された。委員は次の通りである。

運営委員：原田吉之助(主査)，　五十嵐信一(核データセンター室長)
菊池康之，関　雄次，中嶋龍三(以上専門部会長)
白方敬章，椙山一典，中沢正治，山本正昭（以上原研外の関連機関代表）

田中茂也，松浦祥次郎(以上原研内関連部代表)

諮問・調整委員：

安　成弘，飯島俊吾，大竹　巌，椙山一典，田中茂也，

塚田甲子男，久武和夫，更田豊治郎，松延廣幸，山室信弘

これに対して，運営委員会よりも本委員会の活動を中心に進めるべきであるとの意見が出たが，旅費等の事情から運営委を中心に活動せざるをえなくなった過去の経緯・実状等の説明があった。

7. 医学用核及び原子分子データに関するアンケート調査の報告

喜多尾氏から，アンケート調査結果をまとめたJAERI-memo 57-041を用いて，アンケート調査を行うまでの経緯及びアンケート調査の結果について説明が行われた(詳細は省略)。

これに対して，このような分野では，シグマ委やJENDLのことを知らない人が多いので，そのような人達についてデータサービスを考慮すべきであるとの意見があった。また，原田氏から，アンケート調査のad-hoc委でこの方面のデータ活動を進めるべきであるとの意見が強かったこと，放医研より，このような作業は原研でやって欲しいとの要請のあったこと等の説明があった。

8. 専門部会活動計画

(1) 核構造・崩壊データ専門部会

中嶋氏から，資料5.を用いて，同専門部会内の核構造データWG，崩壊熱評価WG及び新設の核種生成量評価WG(資料6.)の活動の現状，今後の予定等について説明があった。

これに関して，崩壊熱のfitting式についての議論，核種生成量評価作業の進め方についての質疑があった。とくに核種生成量評価WGで考えているやり方については，多くの問題があることから今後さらに検討することにした。

(2) 炉定数専門部会

関(雄)氏から，資料7，7′によりJENDL積分評価WGの現状，57年度の計画，JENDL-2Bの積分テストの詳細等について説明があった。

また，中沢氏から，資料8.により核融合炉・遮蔽定数WGの56年度の活動経過，今後の計画について説明があった。

これらに関して，ベンチマーク・テストの結果，RADHEATコード等についての質問，解析上の誤差と核データの誤差との関係についての議論があった。

(3) 核データ専門部会

菊池氏から，資料9.にもとづき同専門部会内のガンマ線生成核データWG，核融合核データWGについての56年度の活動報告と57年度の活動予定の説明があった。また，57年度から新設される核データ評価WGとファイル作成WGの計画の説明，核データ評価WGの中の4つのサブWGの概要の説明があった。この中で，JENDL-3の評価作業を効率よく行うためにWG及びサブWG間の密接な連絡がとれるよう，リーダの会合を頻繁に行いたいとの方針が出された。

これに関連して，核融合核データWGでの作業とJENDL-3の軽核の評価作業との関係について質疑があった。

9. 国際会議報告

(1) NEACRP会合報告

弘田氏から，資料10.を用いて，NEACRP第24回会合の報告があった。その中で，NEACRPのad-hoc委員会が行っていたJoint Evaluated File (JEF) Projectの調整作業は，新たに設置されたScientific Co-ordination Groupが行うことになったこと，その第1回会合で話題になったJoint Evaluated File Projectのphase Iの今後の作業，phase IIの計画等の説明があった。

この説明をもとに，JEFについて討議を行い，次のような議論や意見があった。

- 日本はphase Iに正式に参加しているか —— Scientific Co-ordination

Groupの会合に正式のメンバーを送っている。

- JENDL-3は公開するのか── JENDL-1, 2は公開すると言ってあるが，JENDL-3については何も言っていない── その他公開の是非についての議論。
- NEAデータバンクでベンチマークテストをやるようだが，データ・バンクの本来業務に支障はないのか
- JENDL-3の作業を考えたら，phase IIに参加できないことを早く宣言した方がよい── NEAデータ・バンクから実験データ等の提供を受けているので制限つきの返事をせざるをえない。
- むしろUSAとの提携を考えたらどうか── 核物理に関する日米科学技術協力(人物交流)が57年度からスタートするが，その中に核データも含めたい．等々。

これらの意見に対して原田氏から，これまで出された意見をもとに官庁とも折衝して9月頃までに対応策を検討したいとの発言があった。

(2) INDC会合報告

原田氏から，資料11.により第12回INDC会合の概要について報告があった。その中で，ソ連が評価済みデータをENDF/B-Vのフォーマットで処理することになったこと，中国の核データ活動の近況，発展途上国援助のためのIAEA Technical Assistance Interregional Project (IP)のこと，INTORワークショップでのファイル作成計画等の説明があった。なお，INTOR関係については関(泰)氏から補足の説明があった。

10. 長期計画

五十嵐氏から，核データセンターの長期計画で地域センターを考えているが，最近，中国の核データ活動が盛んになってきたこともあり，これに対する各委員の意見を聞きたいとの発言があり，自由討議を行った。出された意見をもとに，今後も機会ある毎に討議することにした。

11.　57年度研究会

原田氏から，本年度も核データの研究会を予定しているが，開催までにまだ時間があるので，テーマなどについて意見があったら事務局へ連絡して欲しいとの要請があった。